慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	YMCAアーカイヴズ(ミネソタ大学)所蔵中国YMCA関係史料について：天津関係史料を中心に
Sub Title	Materials related to Tianjin YMCA in the possession of Kautz family YMCA archives
Author	戸部, 健(Tobe, Ken)
Publisher	三田史学会
Publication year	2015
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.84, No.1/2/3/4 (2015. 4) ,p.251(251)- 264(264)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	文学部創設125年記念号(第1分冊) 論文 東洋史
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-20150400-0251

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ＹＭＣＡアーカイヴズ（ミネソタ大学）所蔵中国ＹＭＣＡ関係史料について

――天津関係史料を中心に――

戸部　健

はじめに

筆者は、近代中国における教育（とりわけ「社会教育」）と医療・衛生の普及が地域社会に果たした意味について、華北を代表する都市である天津を例にこれまで研究してきた[1]。その過程で、関連する史資料のなかでたびたび目にしてきたものの、十分に検討できなかったものがあった。ＹＭＣＡ（基督教青年会）である。ＹＭＣＡは十九世紀前半にイギリスにおいて誕生したプロテスタント系団体で、「社会的福音」（Social Gospel）[2]という考えのもと、都市の成人男性をそのメンバーとして取り込みつつ、布教活動や、教育や慈善活動などを通した社会救済活動を行なってきた。その影響は現在も一一九の国や地域に及んでいるという[3]。

中国におけるＹＭＣＡの端緒は一八八〇年代中頃にまでさかのぼるが、その活動範囲が急速に拡がったのは、天津や上海に支部が設けられるようになった一八九〇年代以降である。そうした彼らと深い繋がりを持っていたのがニューヨークを拠点とする「アメリカおよびカナダＹＭＣＡ国際委員会」（International Committee of Y.M.C.A. in U.S.A. and Canada、以後「北米委員会」と略称する）で、そこを通して多くの人員が中国に派遣されていた。また、ＹＭＣＡは都市に住む大学生や教員、外国との関わりの強い会社や官庁の従業員を主な会員と

していた。一方で、彼らによる活動は「社会の改良」という精神にも通底するものだったため、官僚層や地方名望家層の一部からも支持を得ていた。そうしたことから、ＹＭＣＡは、近代中国の教育、社会事業、衛生や、地域社会のありよう、さらには中米関係などの動向などについて考える上で無視できない存在であると言える。

中国におけるＹＭＣＡの動きについては、すでにアメリカや中国などの研究者によって様々なことが明らかにされている。ただ、多くの研究が宗教史の文脈でそれを論じており、地域社会史という角度からそれを捉えたものは必ずしも多くない。そのなかにあって、福州におけるＹＭＣＡと地域社会との関係について論じたライアン・ダンチの研究[4]や、上海におけるそれについて検討した張志偉の研究[5]などは貴重である。同様の視点から他の地域のＹＭＣＡのありようについても検討し、その政治的・社会的意義について考えていく必要がある。特に、現時点において研究蓄積が相対的に薄い華北での動向について明らかにすることは急務であろう。[6]

そのような観点のもと、筆者は近年華北地域のＹＭＣＡに関する史料を各地の図書館や文書館で収集している。これまでに上海（上海市檔案館・上海図書館）、北京（北京市檔案館・中国国家図書館）、天津（天津市檔案館・天津図書館）、台北（中央研究院近代史研究所でのデータベースを利用した史料収集）などで調査をしてきたが、このたび科研費の支援のもとで、中国のＹＭＣＡに関する史料を最も多く有するアメリカ・ミネソタ大学の Kautz Family YMCA Archives（以下ＹＭＣＡアーカイヴズと略称する）を訪問し、初歩的な調査をすることができた（二〇一四年八月二七日～二九日の三日間）。同アーカイヴズには、北米各地のＹＭＣＡや、上述した北米委員会に関する膨大な量の史料が保存されている。そうした史料を利用した研究はすでに多く、中国ＹＭＣＡに関しても、アメリカや中国の研究者によるものを中心に、それらに基づいた研究が散見される。ただ、管見の限り、これまで日本人の研究者のなかでこれら史料を使って中国ＹＭＣＡの研究を専門に行なった者は渡辺祐子以外に見られない。[7]そもそも、ＹＭＣＡに関心を持つ者以外に、このアーカイヴズの存在自体あまり知られているとは言えない。上述したように、ＹＭＣＡは近代中国の教育、社会事業、衛生、および地域社会や中米関係などと深い関係にあり、ＹＭＣＡアーカイヴズに保存されている史料のなかには、ＹＭＣＡ史以外の分野にとっ

ても利用価値の高いものが含まれている。それゆえ、もう少し幅広い分野から注目されて良いように考える。

そこで、本稿ではまずＹＭＣＡアーカイヴズの利用方法について紹介する。つぎに、保存されている史料の具体的なイメージを読者に伝えるために、その一例として、今回重点的に収集した天津ＹＭＣＡ関連史料について概観する。その上で、それらが持つ有用性と今後の課題について、現時点で考えるところを述べたい。

一　ＹＭＣＡアーカイヴズについて

ＹＭＣＡアーカイヴズは、アメリカ・ミネソタ大学ツインシティー校のエルマー・Ｌ・アンダーセン図書館（Elmer L. Andersen Library）内にある（写真１・２）。ミネソタ大学ツインシティー校は、ミネソタ州の州都であるセントポール市と、それに隣接するミネアポリス市にそれぞれキャンパスを有しており、エルマー・Ｌ・アンダーセン図書館はミシシッピー川を跨ぐかたちで広がるミネアポリス・キャンパスの西部にある。交通アクセスは至便で、ミネアポリス市からもセントポール市からも電車（ライトレール）のグリーン・ラインで直通できる（West Bank駅にて下車、徒歩二分）。

アーカイヴズを利用する際は、事前に担当者にメールなどで連絡する必要がある。連絡先は、ＹＭＣＡアーカイヴズのウェブサイト[8]のなかの①「Visiting the YMCA Archives」、ないし②「Contacting the YMCA Archives Staff」のページに掲載されている。筆者の場合は、まず①に掲載されていたＹＭＣＡアーカイヴズの代表メールアドレスにメールを出したところ、アーカイヴズのスタッフの一人であるライアン・ビーン（Ryan Bean）氏よりお返事をいただいた（ビーン氏のアドレスは②に載っている）。以後はビーン氏と直接やりとりをし、閲覧史料の事前予約などをした。

利用当日は、まずエルマー・Ｌ・アンダーセン図書館二階の二一九号室にて利用手続きをする。そこでは、ロッカーや閲覧室の利用方法およびコピー・スキャンの申請方法などについても説明を受ける。閲覧室はやはり二階にある。今回筆者がロッカーに荷物を入れて中に入ると、上述のビーン氏がすでに準備を整えて待っていて下さっていた。ビーン氏からは史料の閲覧申請や写真撮影の方法などについて教えていただいた。

ＹＭＣＡアーカイヴズでは利用者の便に供するため、史料群ごとに比較的詳細な目録を作成し、ウェブサイト

写真１　YMCA アーカイヴズの外観

写真２　エルマー・Ｌ・アンダーセン図書館の内部
（2 階左側に見えるのが閲覧室）

で公開している。中国ＹＭＣＡについてもそれは同様で、「YMCA International Work in China: An Inventory of Its Records」[9]というページを通してアーカイヴズが所有する中国ＹＭＣＡ関係の史料について大まかに知ることができる。それを参考にして事前に閲覧希望をメールで出しておけばアーカイヴズ側がそれに基づいて史料を準備しておいてくれるので、当日時間を節約できる。閲覧室において追加の閲覧申請をする場合は、閲覧室に備え付けられている「Archives & Special Collections Call Slip」にコレクション番号、コレクションの名前、ボックス番号などを記入し、閲覧室入り口にいる係員に渡すと、一〇分から二〇分程度で史料が届けられる。なお、閲覧が完了した史料を戻す場合は、史料の入ったボックスの上に、閲覧室備え付けの「Return」札を置いておけば後日回収してくれる。

デジタルカメラを利用して史料を撮影することは、基本的に自由である。撮影にあたっては「Digital Photo Citation Form」という札に史料フォルダのタイトル、コレクション番号、ボックス番号、撮影者の氏名、撮影日などを記して、史料とともに撮影しなければならないが、そうすることで我々が後日写真を整理しやすくなるという利点もある。なお、コピーやスキャンについては、今回の調査で利用しなかったため、具体的な複写費用などはよく分からない。

このように、ＹＭＣＡアーカイヴズは膨大な量の史料を所有しているだけでなく、それをしっかりと整理し、かつ利用しやすい状態にしている。それゆえ、今なお世界中から多くの研究者を呼び寄せているのである。ここで一つ疑問として浮かぶのが、なぜそのような立派なアーカイヴズがＹＭＣＡの本部にではなくミネソタ大学にあるのか、ということであろう。それについては、ＹＭＣＡアーカイヴズのウェブサイトのなかの「Archives History & Mission」というページで説明されている。それによると、ＹＭＣＡアーカイヴズは、アメリカのＹＭＣＡ幹事ジェイコブ・Ｔ・バウン（Jacob T. Bowne）によって一八七七年以降に集められた各種書籍やパンフレット、文書などのコレクションが元になっているという。彼がそのようなコレクションを始めたのは、幹事を育成する上で、ＹＭＣＡの事績に関する資料が必要であるにもかかわらず十分でないと彼自身が感じたからであった。その後コレクションはニューヨークの北米委員会に寄贈され、さらなる発展を見た。北米

委員会関連の資料だけでなく、彼らと関わりを持つ世界中のＹＭＣＡからも関連資料が集まったため、コレクションの量は着実に増えていったのである。とはいえ、それだけの資料を管理・保存するというのは人員の上でもスペースの上でもかなりの負担となったようで、最終的に一九八〇年にアメリカＹＭＣＡの本拠地がシカゴに移った際、アーカイヴズはいったん閉鎖されてしまう。ただ、幸いなことに、八五年にアーカイヴズのコレクションはすべてミネソタ大学によって引き取られることになった。また、九六年には、ビジネスマンで、著名なＹＭＣＡの平信徒リーダーでもあったリチャード・Ｃ・カウツとその家族より八十万ドルの寄付を受け、さらに九九年には新築されたエルマー・Ｌ・アンダーセン図書館にコレクションが移管されて、今に至っている。

二　所蔵資料の概要―天津に関するもの―

（一）中国ＹＭＣＡ関連の資料群（整理番号：Y. USA. 9-2-4）

次に、ＹＭＣＡアーカイヴズが所蔵する中国ＹＭＣＡ関係の史料について、天津に関するものを中心に紹介する。先述したように、ＹＭＣＡアーカイヴズは「YMCA International Work in China: An Inventory of Its Records」という、中国ＹＭＣＡ関連史料についての目録をウェブサイト上で公開している。そこでは史料群を大きく以下の七つに分類している。（一）歴史と背景に関する資料（History and Background Material）、（二）年次報告と四半期報告（Annual and Quarterly Reports）、（三）全国会議（National Conventions）、（四）往復書簡と報告（Correspondence and Reports）、（五）会館についての報告（Building Reports）、（六）テーマ別のファイル（Subject Files）、（七）定期刊行物（Journals）。

以上のうち、今回の調査では（五）、（六）のなかに含まれる天津関連の史料を主に閲覧した。一方、それ以外ものについては今回の調査対象から外した。その理由は以下のとおりである。（一）と（七）：目録を見る限り天津関連の史料がない。（二）：後述するように、それらをまとめた史料集が近年刊行されたため、渡航前に大半の史料を日本国内で見ることができた。（三）と（四）：時間不足のため閲覧できなかった。ただし、（三）については、関連史料が（六）のなかにも含まれていた。

従って以下では、（二）、（五）、（六）に含まれていた

天津に関する史料について、簡単に紹介する。なお、中国ＹＭＣＡ関連の史料群は全部で一二一のボックスに分けられている。また、各ボックス内の史料はさらにいくつかのフォルダに分割されている。

年次報告と四半期報告

中国に派遣されたＹＭＣＡの幹事たちは、各支部の活動内容やそれを取り巻く社会情勢などについて、バイブルクラス（査経班）の参加者数や改宗者数などのような統計データとともに定期的に北米委員会に報告することになっていた。そうした報告文書がＹＭＣＡアーカイヴズに二一ボックス分残っている。そのうち天津に関する文書は一八九六年のものから一九三〇年のものまで全部で八六件あり、全国的に見ても上海、北京に次ぐ量を誇る。こうした報告を読むことで、天津ＹＭＣＡの年度ごとの活動について、大まかに知ることができる。

なお、上でも述べたように、年次報告と四半期報告の多くは二〇一二年に広西師範大学出版社より刊行された史料集『美国明尼蘇達大学図書館蔵基督教男青年会檔案：中国年度報告（一八九六―一九四九）（附国際幹事小伝及会所小史）』[10]に収録されている。この史料集は日本のいくつかの大学図書館でも見ることができる（二〇一五年一月現在、京都大学、国際基督教大学、静岡大学、法政大学、目白大学の各附属図書館が所蔵）。また、さらにありがたいことに、こうした報告の一部は、ミネソタ大学図書館が運営するデジタル・アーカイヴズである「UMedia Archive」[11]でも閲覧できる。

会館についての報告

ボックス八三と八四とに分けられて以下のような内容のフォルダが保存されている。

Tientsin, 1896–1946（Box 83）：天津ＹＭＣＡの会館建設に係る諸問題や、会館の維持コストなどに関する文書が六つのフォルダに分かれて収蔵されている。一九〇九年に刊行された『新会所之営造』、一九一三年五月に刊行された『天津基督教青年会新建築之立基紀念』という冊子もその中に入っている。

Tientsin residences, 1911–1953（Box 83）：天津ＹＭＣＡがかつてイギリス租界に所有していた宿舎に関する文書が、二つのフォルダに分かれて収められている。

その他、財産関連の会議の議事録（Tientsin, Meetings of the board of directors, 1896, 1898, 1899, 1903,

1904〔Box 84〕および Tientsin trustees minute book, 1896–1907〔Box 84〕）や、天津市街図、天津ＹＭＣＡ会館の見取り図（Tientsin maps and blueprints、作成年不明〔Box 83〕）などのような史料もある。

テーマ別のファイル

Boys' Work, Tientsin Boy Scouts, 1916–1925（Box 98）：天津のボーイスカウトに関する文書や、パンフレット『中華童子軍天津支部章程』（一九一六年制定）を収める。

Survey of YMCA in China, 1920–1924（Box 107）：同時期に実施された中国ＹＭＣＡの各支部所在地についての調査報告が二つのフォルダに纏められている。一九一九年に実施された天津に関する調査報告もそのなかに含まれている。調査項目は総人口数、外国人数、宗教人口数、労働人口数、および各宗教施設、各高等教育機関、民衆の教育水準、産業構成、都市インフラ、輸出入、医療衛生、娯楽、体育施設、民衆のモラルなどの情況、さらに天津ＹＭＣＡの現況や彼らによる活動の詳細にまで及んでおり、極めて貴重な史料と言える。

Local Associations: Tientsin, 1909–1935（作成年不明のものを含む、Box 117）：天津ＹＭＣＡの諸活動に関する雑多な史料が四つのフォルダに分かれて収録されている。そのなかには『天津基督教青年会社会研究会日期表』（一九一五年）、『天津基督教青年会実業学校』（一九一五年）、天津基督教青年会『全国二十五週年第八次大会紀念冊』（一九二〇年）、『天津基督教青年会卅週紀念』（一九二五年）、『天津基督教青年会卅五週紀念』（一九三〇年）、『天津基督教青年会四十周年紀念冊』（一九三五年）、『天津基督教青年会図画特刊』（一九三八年）、Robert R. Gailey, *Six Month's Army Work in Tientsin: September 1st 1900, to March 1st 1901*（出版年不明）、*Tientsin Anglo-Chinese College. Annual Meeting of the Court of Governance*（一九三三年）、*Roster of the Y's Men's Club Tientsin, China*（一九三四年）、などのような冊子体のものや、各種パンフレット、新聞の切り抜きなどが含まれる。

（二）伝記資料（整理番号：Y. USA. 12）

ところで、天津ＹＭＣＡには北米委員会から多くの人員が派遣されていた。彼らの天津における在任期間と職名について纏めたのが表1である（現時点で職名が不明

表1 天津 YMCA に赴任した西洋人幹事一覧

名前	天津在任期間（括弧内は職名）
David Willard Lyon	1895-1898
Robert Reed Gailey	1898-1910（1903- General Secretary）
Charles Way Harvey	1903-1916（1903- Associate General Secretary, 1908- Regional Director for North China）
Frank Beach Whitmore	1905-1906, 1912-1914（1912- Associate General Secretary）
Roscoe Monroe Hersey	1905-1927（1911- General Secretary）
Raymond Stearns Hall	1907-1921, 1926-1929（1909- Associate General Secretary）
Clarence Hovey Robertson	1907-1909（1907- Literati Secretary）
Luther Newton Hayes	1908-1911, 1927-1932
Stanley Browning Collins	1912-1913
Charles Arthur Siler	1914-1918
John Robert Trindle	1914-1915
Rupert Harrison Stanley	1914-1915
Arthur Greenwood Robinson	1915-1926
John Wesley Nipps	1915-1920
Arthur Lockley	1917-1925
George Grace Helde	1918
Austin Oliver Long	1921-1922
Harry Lees Kingman	1925-1927

（典拠）「基督教男青年会来華国際幹事小伝（1895-1950）」陳肅、達格瑪・蓋茨、大衛・克労森整理『美国明尼蘇達大学図書館蔵基督教男青年会檔案：中国年度報告（1896-1949）（附国際幹事小伝及会所小史）』1、桂林、広西師範大学出版社、2012 年。

な者も多い）。これら人物の個人的な記録（本人および家族の履歴書、略歴に関する資料、手紙など）もYMCAアーカイヴズには保存されている。筆者が今回の調査で収集できたのは、天津在任期間が比較的長かった以下の人物に関する伝記資料である。

Gailey, Robert Reed (Box 68)

Hall, Raymond Stearns (Box 80)

Harvey, Charles Way (Box 85)

Hersey, Roscoe Monroe (Box 90)

また、中国人会員の伝記資料も残されている。ただしその数は少なく、天津に

関しては管見の限り張伯苓（南開大学の創始者の一人）のものだけである。

Chang, Po-Ling（Box 30）
Po-ling, Chang（Box 163）

以上のように、ＹＭＣＡアーカイヴズには、天津に関するものに限ってみてもかなり多くの史料が収蔵されていた。それでは、こうした史料は天津ＹＭＣＡや天津の地域社会史研究にとってどのような意義を持つのであろうか。また、現時点においてどのような課題が見いだされるのだろうか。最後にそれらの点について考えてみたい。

三　天津のＹＭＣＡ史および地域社会史研究にとっての有用性と残された課題

（一）ＹＭＣＡアーカイヴズ所蔵史料の特徴と有用性

ＹＭＣＡアーカイヴズ所蔵史料の特徴としてまず挙げるべきは、大量の一次資料を含んでいることである。中国ＹＭＣＡに関する一次資料は中国大陸の一部の公文書館（檔案館）にも所蔵されているが、これまで筆者が調べたところによるとその数は必ずしも多いとは言えない。また、その大半が、一九四〇年代から五〇年代における彼らの活動に関するものや、人民共和国期に政府によって取り組まれたＹＭＣＡ財産の接収に関するものなどである。当然のことながら、かつては中国大陸にもＹＭＣＡ自身によって作成された文書類が大量に存在していたという。ただ、陳秀萍によるとそのほとんどが残念ながら文化大革命時に廃棄されてしまったようである。[12] そうした点を鑑みるならば、たとえそれが北米委員会と関わりのある文書のみであったとしても、中国ＹＭＣＡに関する一次資料の一部が残され、かつ広く公開されていることは喜ぶべきことであろう。コレクションの保存・公開に向けて努力してきたＹＭＣＡ関係者とそのサポーター、および現在アーカイヴズの運営をしているミネソタ大学に敬意を表したい。

ＹＭＣＡアーカイヴズ所蔵史料の特徴としてそのほかに挙げられるのは、中国大陸の図書館・公文書館に保存されていない図書や雑誌を多く所蔵しているということである。天津（さらに北京）のＹＭＣＡに関して言えば、上述のように筆者はこれまで上海・北京・天津・台北で調査を行ない、多くの図書・雑誌を複写、撮影ないしマイクロフィルムのかたちで入手してきた。ただ、今回の

ＹＭＣＡアーカイヴズにおける調査で、それら以外にも、関連する図書が多く残されていたことが明らかになった。例えば先述した『天津基督教青年会実業学校』、『全国二十五週年第八次大会紀念冊』、*Six Month's Army Work in Tientsin: September 1st 1900, to March 1st 1901* などいくつかの書籍は、今回の調査で初めてその存在が判明したものである。

また、天津の地域社会史研究にとって有用な史料も多く発見することができた。前述した Survey of YMCA in China, 1920-1924 はその最たるものだが、同時期に刊行された『全国二十五週年第八次大会紀念冊』[13]も、ＹＭＣＡの情況に加え、当時の天津における行政、教育、実業、交通インフラ、遊芸などに関する情報を掲載している。筆者の知る限り、一九二〇年前後の天津に関する詳しい調査報告は、現時点において中国大陸にもあまり残っていない。それゆえこれらの史料は大変貴重であると言える。それらと中国大陸などに保存されている史料とを、上述した一次資料も合わせてうまく活用すれば、天津のＹＭＣＡ、さらには彼らを取り巻く天津の地域社会の状況についてさらにはっきりとした像が結べるはずである。

三つ目の特徴として挙げられるのは、こうした史料の多くが北米委員会から派遣されたＹＭＣＡの幹事によって作成されたということである。それゆえ、かかる史料の記述は、中国外の人間の主観が働いている可能性があり、利用の上で注意する必要がある。ただ、その一方で、外側の人間ゆえの記載もあろう。例えば、一九二〇年代以前の天津では、出稼ぎや災害を理由とした外部人口の流入が絶え間なく起こっており、そうした人々に対する教育的・衛生的措置および社会事業の必要性が知識人を中心に盛んに議論されていた。とはいえ、都市の行政が十分に発達していなかった当時の状況では、そうした問題への対応を広く社会に頼らざるを得なかった。そのなかにあって重要な活躍をしたのが在来の慈善団体である善会・善堂や、地方名望家や教育家らを中心とした「社会教育」団体、そして各宗教団体であった。ＹＭＣＡもそうした団体の一つであり、実際貧民救済や識字教育など様々な事業を行なっていた。ただ、彼らが立脚する思想的背景は当然のことながら他の団体と大きく異なるものであった。それゆえ、問題認識のあり方や、実際の活動の方法などの面で独自性があり、そうした側面は彼らが作成した文書上の記述にも反映された。もちろん、Ｙ

ＭＣＡの史料のみを見て当時の都市における教育・衛生・社会事業の問題をすべて論じられるわけではないが、様々な団体が参入することで非常に複雑かつ多様な様相を呈していた当時の情況を総体的に明らかにする上で、ＹＭＣＡの史料を検討することは不可欠である。

（二）現時点での課題

以上のように、ＹＭＣＡアーカイヴズの史料は近代天津のＹＭＣＡ史や地域社会史研究にとって極めて有用なものであると言えるが、問題がないわけではない。

それは、英文史料と中文史料との間で史料作成年代に差異があることである。今回閲覧した史料は英文のものと中文のものとに分かれるが、北米委員会との間で往復された文書など一次資料は基本的にすべて英文で書かれていた。問題なのはそうした英文史料の多くが一九二〇年代前半以前に作成されているということであり、例えば年度報告と四半期報告で見ると、一九二四年以前に書かれたものが全体のおよそ九六％（八六の文書中の八三）[14]を占めていた。一方、中文で書かれた史料（そのほとんどが配付を目的とした冊子体のもの）について見てみると、多くが一九二五年以降に刊行されたものとなっていた。実際、中国大陸で目にすることができる天津ＹＭＣＡ関係の中文書籍・雑誌も大半が一九二五年以降に出版されたものである[15]。それには、一九二二年の反基督教運動以降、ＹＭＣＡが「本土化」（現地化）したこと、およびそれによって北米委員会との関係が弱まったことがおそらく関係していよう。

ただ、こうした情況は、天津ＹＭＣＡの活動を客観的に捉える上で障害になる可能性がある。すなわち、一九二四年以前のありようについては一次資料を利用した詳細な検討ができるが、どうしても外国人幹事の視点に引っ張られがちになってしまう。他方、一九二五年以降についてはある程度中国人幹事の意向も見えてくるが、一次資料が少ないため、ディテールの面で一九二四年以前のものを超えるのが難しいかもしれない。こうした限界を突破するのは容易でないが、ひとまず一九二四年以前については、オーソドックスではあるが現地で刊行された新聞・雑誌に掲載されたＹＭＣＡ関連の記事を丹念に拾い、それによって一次資料の相対化をはかることが肝要かと考える。一九二五年以降に関しては、あくまでも希望的観測に過ぎないが、今回調査できなかった、ＹＭＣＡアーカイヴズの（四）「往復書簡と報告」に分類

された史料群のなかに問題解決の糸口が隠されているかもしれない。

こうした情況は、おそらく天津以外のＹＭＣＡにおいてもある程度共通しているものと考えられる。ＹＭＣＡアーカイヴズの限界として認識した上で、打開策を見いだしていく必要があろう。

おわりに

以上、ＹＭＣＡアーカイヴズの利用方法および同館所蔵の天津ＹＭＣＡ関係史料の概要について紹介した上で、それら史料の有用性と課題について述べた。もっとも、本稿で取り上げた史料はＹＭＣＡアーカイヴズが所蔵する膨大な史料から見ればほんの一部に過ぎず、これをもってすべてを論じられるわけではない。ただ、それでも都市ごとにＹＭＣＡに関する史料がどのようなかたちで残されているのかということについての大まかなイメージを、天津の事例を通して読者に対して伝えることができたのではないかと考えている。天津を含む中国各地のＹＭＣＡに関心を持つ研究者の参考になれば幸いである。

なお、中国ＹＭＣＡ関係の史料は、ＹＭＣＡアーカイヴズ以外にも例えばロックフェラー・アーカイヴ・センター[16]やユニオン神学校バーク図書館（ともにニューヨーク）、イエール大学神学校図書館（ニューヘイブン）などにも存在するようである。ＹＭＣＡアーカイヴズと合わせて今後調査する必要があると考える。

註

（1）「社会教育」については、戸部健『近代天津の「社会教育」―教育と宣伝のあいだ―』汲古書院、二〇一五年、を参照していただきたい。医療・衛生に関しては以下などを参考のこと。同「清末天津におけるペストの流行とそれへの対応」『史潮』新六九号、二〇一一年。同「近代中国における通俗衛生知識―天津（一九一二～四五年）の事例から―」『歴史学研究』八三四号、二〇〇七年。同「北洋新政時期天津中医界的改革活動與地域社会」『中国社会歴史評論』八号、二〇〇七年。

（2）資本主義の発達とともに都市を中心に発生するようになった様々な社会問題を、キリスト教の精神に則った各種活動によって解決していき、それによって個人だけでなく社会全体を改良していこうという考え方。

（3）「ＹＭＣＡについて」（公益財団法人日本ＹＭＣＡ同盟のウェブサイト：http://www.ymcajapan.org/about/index.html）

（4）Ryan Dunch, *Fuzhou Protestants and the Making of a*

Modern China, 1857-1927, New Haven & London: Yale University Press.

（5）張志偉『基督化與世俗化的捋扎―上海基督教青年会研究（一九〇〇～一九二二）―』台北、国立台湾大学出版中心、二〇一〇年。

（6）近代中国におけるＹＭＣＡの活動の概略や、それらに関する歴史研究の動向については、ひとまず下記を参照のこと。戸部健「中国、特に華北ＹＭＣＡ史研究の動向」『歴史評論』七六五号、二〇一四年。

（7）渡辺祐子「もうひとつの中国人留学生史―中国人日本留学史における中華留日基督教青年会の位置―」『明治学院大学教養教育センター紀要カルチュール』五巻一号、二〇一一年。

（8）https://www.lib.umn.edu/ymca

（9）http://special.lib.umn.edu/findaid/html/ymca/yusa0009x2x4.phtml

（10）陳肅（Su Chen）、達格瑪・蓋茨（Dagmar Getz）、大衛・克労森（David Klaassen）整理。

（11）http://umedia.lib.umn.edu/

（12）陳秀萍編著『沈浮録―中国青運與基督教男女青年会―』上海、同済大学出版社、一九八九年。

（13）一九二〇年に天津で開催された中華基督教青年会二十五周年第八回全国大会に合わせて作成されたもの。

（14）北京（北平を含む）でも八八・五％（一一四文書中一〇一）というように、一九二四年以前の文書が圧倒的多数を占める。

（15）例えば、会の活動を長期的に追う上で機関誌の存在は重要であり、天津ＹＭＣＡにも『天津青年』という比較的長期に刊行されていた機関誌があった（現在その一部をマイクロフィルムのかたちで購入することができる）。ただし、その刊行時期は一九三二年から四八年までであった。なお、天津の各図書館および上海市檔案館における天津ＹＭＣＡ関係資料の所蔵情況は以下などを参照のこと。貴志俊彦・劉海岩・張利民編『天津史文献目録』東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター、一九九八年。上海市檔案館・美国舊金山大学利瑪竇中西文化歴史研究所編『中国教会文献目録―上海市檔案館珍蔵資料―』上海、上海古籍出版社、二〇〇二年。

（16）下記のサイトから目録の検索ができる。一部の史料はオンラインで閲覧できる。DIMES: http://dimes.rockarch.org/xtf/search。

※本稿は科学研究費補助金「キリスト教信者コミュニティーからみた近代沿海諸地域の横断的研究」（研究代表者：蒲豊彦）による成果の一部である。